

# 米沢興讓館友師百期会会報



## 友師百期会代表挨拶



旧6組 安部徳朗

去る11月4日 第2回「友師百期会」を開催いたしました。3連休の中日であったにも拘らず、38名の「友師」にお越し頂けたこと、たいへん感謝しております。懐かしい顔ぶれとの再開で話も弾み、2次会にも多くの方に参加いただき、たいへん盛り上がった会になりました。また偶然にも、興讓館応援団OB会「若鷲会」の30周年記念大会と重なり、安部市長を含むOBの方々に飛び入りでエールを送っていただけたので、私もびっくりに、そして感動いたしました。

さて、最近テレビを見ますと悲しいニュースが目立ちます。自殺する生徒、先生、子を殺す親や親を殺す子。私も二人の子供を持つ親として、深く考えさせられます。ありがたいことに、私は良き友・よき先生に恵まれこれまで歩んできたことができたが、大人になった今でも、悩みを打ち明け相談できる「友師」の大切さを痛感いたします。「友師百期会」のテーマである「友を思い、恩師との縁を大事にする」その場所を提供することで、少しでも皆様のお役に立てればと思います。偉そうなこと言っておりますが、まだまだ不慣れな幹事ですので、皆様にはご迷惑おかけすることと思えます。参加人数の増加や連絡方法、会費の予算化等、まだまだ問題はありますが、来年以降も継続して開催したいと思っておりますので、今後も皆様のご協力よろしくお願いいたします。

友師百期会会報に寄せて

旧学年主任 小野隆夫



昨年引き続き今年もまた友師百期会に参加させていただきました。有難うございました。私のように定年退職をしてからこういう会

に参加し、昔を思い出しながら若い皆さんと、話をすることは大きな楽しみになっています。

昨年は、発会の年でしたので当然ですが、今年もまた、高校卒業以来 16 年ぶりでお会いした人も数名おりました。皆さん、それぞれの立場で活躍されている由なによりと思っています。

さて、当日挨拶の中でも、触れたことですが「友師百期会」の命名について「師」という一字を入れていただいたことに、昨年の会報で御礼を申し上げましたが、私達も皆さんの仲間に入れてもらった会であるのに、今年は私と石黒先生の二人だけの参加でした。会の命名の意味を理解し今後できるだけ多くの先生方にも参加してもらおうよう努力したいと思つたところです。もう一つ、これも当日、話をしたことです。我が興譲館高校の同窓会の会費は学年ごとにまとめて収めることになってい

ます。平成になってからの卒業学年で昨年きちんと収めたのはこの友師百期会だけということ

でした。それはリーダーの存在が大きいのです。皆さんに呼びかけてこういう会を主催するということは本当に大変なことです。そういう意味でもまとめてくれる幹事の皆さんには心から感謝したいと思います。

幹事の皆さんの努力に報いるためにも一人でも多くの仲間を誘つて次年度は参加するように協力してもらいたいものだと思つているところです。

退職して 6 年目になりましたが、ゴルフやソフトボールの仲間に入れてもらつて活動をしています。昨年からは私の父、母の介護生活にも入りました。

父母の介護生活の中に自分の生活をいかに充実させていくかという新しい課題に挑戦し模索している毎日です。人間である限り必ず死と向き合い時が来ます。死期を目前にした老人を介護しながら、充実した生活を送るためがいている日々の生活です。人生その時々、身に降りかかる課題があるものですが、今はそういう課題を克服すべく努力しているところです。

皆さんもそれぞれの職場や、家庭等でいろいろな課題に挑戦していることと思いますが、い

つも前向きな思考ということをお忘れしないで進んでいただきたいと思つています。

また来年の再会を楽しみにしています。

旧 2 組 眞鍋由布



未履修問題が取り沙汰される中、敢えて禁断の果実に触れるように恐縮ですが、誤解を恐れずに言うならば、無駄な（失礼ながら）授業にこそ、珠玉の逸話が散りばめられていたように思つています。出張先の海外で、例えばフランスへ渡ればサッカーワールドカップの話題を、ポルトガルへ行けば何気なく聞いた長襦袢（ながじゅばん・和装の下着）の名を、ポーランドでは回し読みしたエカテリーナ二世の漫画のことなどを思い出したりしました。

在校当時は先生のお話が脇道に逸れると、教科書の進まないのに気を揉み、席を後ろに移してはこつそり自習したもので、もつとちゃんと聴いておけばよかったな、今となってはカルチャースクールでお金を払つても叶わないのですから。

卒業してからの、クラスや部活動を超えた仲間との交流。こ

れもかけがえのない財産となつていきます。私の身体を気遣い亜鉛の栄養不足を指摘してくれた友、スキーの検定合宿に誘つてくれた友、ある時は家を新築するのにアドバイスを請うたり、ある人からは投資の話が聞けたりと（我が家には当面無縁ですけれど）本当にありがたいことです。

私事、四年前に勤めていた会社を退職し、現在は札幌で専業主婦をしております。海の幸、大地の幸あり、四季の移ろいも美しく、なかなか住みよい街です。雪祭りに加え、夏のビアガーデンも楽しいですよ。微風と木漏れ日の公園でビール、なまらうまいっしょ。



旧 3 組 佐藤真理

11 月初旬の晩秋の候、卒業後 17 年振りに懐かしい顔ぶれや先生方と再び出会うことが出来ました。

不思議なもので、17 年という長い年月を経ても、あの時のまぶしかった若かりし頃の思い出がついこの間の出来事のように思い出されるときも、すべにおじちゃん・おばちゃんと呼ばれる年頃になっているのにも関わらず、当時のように「君、ちゃん」と自然に呼び合つてることが、なんとも心地よく、優しさと安堵感を覚えた同窓会でした。



私事になりますが、卒業後からずっと東京で暮らしており、来年でちょうど高校まで山形に住んでいた時間と同じくらいの年月を過ごしていることになりました。東京がすでに、第二の故郷になってはいるのですが、毎年、高校野球のシーズンになると上ノ山球場で、受験を控えた高校三年にあつたにも関わらず、授業をちよつとお暇（いとま）させていただいて無我夢中で応援した、暑くて熱かった夏の日を思い出し、1 人テレビで応援に燃えている私があります。





特に今年は、ハンカチ王子の齋藤君やライバルの苦小牧の田中君（皆さん、3組の北村君に似てるとは思いませんでしたか？笑）の戦いがあの時の感動と“若さ”まで？！呼び戻してくれたような気がいたしました。

故郷は遠きにありて想うもの・・・とありますが、この度の同窓会を機に、同窓の皆さまと、もつと身近なお付き合いをさせていただければ幸いです。

最後に、今回の『友師百期会』を開催にまでご尽力してくださった幹事の方々に感謝いたすとともに、御礼申し上げます。ありがとうございました。



平成2年卒業友師百期会  
旧4組 星野剛

秋も深まり銀杏の木々が冬支度を始める季節となりました。皆様に於かれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。先日の同窓会では懐かしい顔ぶれに会う機会を頂き本当に有り難うございました。ほぼ1年前に開催された第1回の友師百期会には私事の都合で参加できずに残念に思っていたところ、今年も2回目の同窓会があるとお聞きして喜んで参加させて頂いた次第です。

卒業して早10数年。気が付けば自分もオヤジと呼ばれる年代に入り、普段の生活ではなかなか思い出すことができない高校時代。とても懐かしく思い出す機会になりました。

予習、授業、復習、単語テスト 課題、テスト、追試・・・ほとんど辛い勉強の思い出ばかりなのは気のせいでしょうか。ふと思いつくのは、高校3年生の最後の高校野球県予選。上山まで学校を抜けて応援に行ったこと。剣道場だったか体育館だったかでみんな一緒に正座、説教・・・懐かしいですね。集まった同窓生の方々と現況やら思い



友師百期会第2回開催に寄せて  
旧5組 高橋源浩

出などを話せるような機会は本当にいいものだと思認識しました。そして、高桑くん、名前を度忘れして思い出せませんでした。ごめんなさい。

最後になりましたが、お忙しい中この同窓会を準備して下さいました同窓生の方々に深く感謝したいと思います。今後とも旧交を温められればと思います。本当にありがとうございました。

平成18年（2006年）、無事に第2回が開催されました。3年前、興譲館高校同窓会の学年幹事の選出に際し、在郷の十数人の間で押しつけ合いをしていた頃から考えますと、なんとも喜ばしい限りであります。

この度も事務局の方々には諸連絡・開催場所等の段取りにご尽力いただき、紙面を借りて感謝申し上げます。さて、今後の同窓会の動きも期待されることではあります。母校でありま

既に1年前になります。我々平成2年卒の学年が、5学年で編成される幹事担当学年の1学年を担当することとなりました。執筆他数名が、学年代表として、不定期に開催された打ち合わせに参加してきました。各学年で役割分担があり、計画に沿って同窓会懇親会の運営がなされます。昨年度は、平成2卒は当日の小道具運搬・チケット販売補助程度でしたが、上の担当学年となりますと、チケットの発注・管理、懇親会の企画・運営、母校並びにOBとの諸連絡など、より重要な役割を担っていくこととなります。例年、当会は参加者総勢五百名を越える規模で開催され、会の運営には、OB同士の横の連携が欠かせません。

本年まで、平成2年卒は昨年と合わせて2回の学年内での同窓会が開催できました。ところで、平成2卒は学年全体でおよそ二百五十名を擁しておりますが、友師百期会で連絡先等を把握できている人数は百名に及びません。今後、全体の同窓会への取り組み、同窓会会費等とりまとめ等を考えますと、さらなる連携の強化が必要になってきます。平成2卒の皆様方も、30代も半ばを越え、皆様それぞれが一組織の中で各個とした位



ダイスキな6組のみんなへ  
旧6組 最上優子

置を築きつつあるものと思えます。日々多忙な時間を過ごされているとは思いますが、個人や組織の利に埋没するのみでなく、社会を構成する一員として、時に自己が若き日に過ごした高校時代を懐かしみ、ご先輩となられた旧職員・OBや今を生きている在校生に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。きっとそこには自らが思い出せる以上の発見や邂逅が待っていることでしょう。

思い起こせば20年前・・・15の春。まさに私が足を踏み入れてしまった世界それはオトコ、オトコ、オトコ、オトコ・・・そうそれは野郎だらけの世界。気が狂うかと思っただよ、いや、もしかしたら気が狂ってしまった。今のこんな私があるのかもしれない(笑)。

体育が終わって入るあの39人分の男臭い教室、もう動弁してくれよ、ちゃんとズボンくらい履けよ、みたいなことは日常茶飯事。まったく、レディがいることをアナタたちは忘れていたんでしょう？でも、これ



6組女子一同

でなかなか憎めない人たちだったんだよねえ。  
 クラスマッチの時は『Go Go 最上ちゃん新聞』なるものが発刊されたり、受験時にはお守りやら、激励の手紙をもらったり、私が大学の女子寮に入るのが決まった時は『もがみちゃん 女子寮でやっていけるの?』と余計な心配をしてもらったり思い出は数知れず・・・。  
 6組の男たちは優しかった! さりげない優しさに私は3年間助けられました。  
 理数科6組だったこと、今もこうして良き仲間としていれること、私の人生において素晴らしい財産です。  
 6組のみんな どうもありがとうね。そして これからもどうぞよろしく。

参加者名簿

小野隆夫 石黒宏治

旧2組(普通科文系)

紺野みのり 有賀富大  
長谷川敏幸 眞鍋由布

旧3組(普通科文系)

黒田 晋 佐藤典彦  
佐藤真理 田中克昌  
鈴木寿延 白田みづほ

旧4組(普通科理系)

芳賀弘明 星野 剛  
我妻栄子

旧5組(普通科理系)

井家勝己 金子章江  
熊倉ゆか 新藤麻子  
高橋源浩 土開智佳  
原田 敦 廣居 誠  
横田 理

旧6組(理数科)

安部徳朗 漆山 保  
菅野秀人 小野里栄二  
黒沢 信 佐藤洋三  
穴戸俊文 武田誠一郎  
中川宏生 本間 亘  
最上優子 山口尚夫  
渡部晃央 横山謙太郎

編集後記

11月4日(土)に第2回目の友師百期会を開催した。当たり前の話であるが、皆立派な大人になっていた。久しぶりに会って楽しかったし、何よりも旧交を温めることができて嬉しかった。

次の日、友師百期会の余韻を楽しむべく、一人で旧校舎跡に行ってみた。米沢に住んでいるものの旧校舎跡には久しく足を運んだことがない。御存知の方も多いと思うが、現在は「すこやかセンター」になっていて当時の面影は何もない。在学中、部活が終わるとすぐに足を運んだ「だんごや」(ガリガリ君や喉に凍みるパインサイダーの味は生涯忘れることができな)、「夏合宿のとき冷蔵庫変わりとなった「カクダイジャスコ」等、周辺もあの頃とは様変わりをしていた。半年間の生活だったが思い出がたくさん詰まった校舎だった。あれから20年。光陰矢のごとしである。

高校卒業後1年間社会勉強(浪人)をした。仙台で生活することに不安と緊張の中で街を歩いていると同級生と会った。ホッとした。受験では満足のいく結果は残せなかったが、お互い励まし励まされた「友」は私の財産であり心の支えである。高校4年目も多くの「友」と知り合うことができた。素直に感謝したい。

来年も多くの方に参加をしていただきたい。現在思案中であるが、高校時代を懐かしんでもらうために当時の映像(写真)を流したり、卒業以来校舎に行ったことがない人のために校舎前で記念撮影をしたり、土夫を凝らし開催したいと考えている。

事務局 穴戸俊文

